

## 2. 農民層分解・ムラの解体・新しい農業主体の形成 との関連で

後 藤 和 夫 (奈良女子大学)

村研宿題委の本年度課題の具体化に関して、何らかの意見をというご連絡をいただいたわけですが、私はこの四、五年来、大会にも出席つねならずという状態になってしまっています。昨年、大会にも欠席してご迷惑をおかけしています。そのため大会や委員会の討議や雰囲気にもふれず、「研究通信」を読んだうだけですから、宿題委員の中に指名されている責任は感じるので、十分なことを申し上げられそうにもありません。

「研究通信」は九六号の第一回研究会の分まで拝見しているわけですが、「前年度報告討議の若干の論点整理」は、高山さんのご努力によってたいへん行届いたものになっていると考えます。たゞ大会での報告や討議の内容は「通信」に十分のるわけでもないのです。その点詳しくはわかりませんが、本年度の課題に関する限りで申しますと、九六号にあるように、「課題は昨年度の継続とすること」は当然しかるべきことと考えられますし、大会での「報告討議の対象範囲の重点を戦後段階におくこと」も、昨年度大会で皆さんが諒解済みであるかのようにさえ、私などは聞いておりました。それは、これまでの大会・研究会の報告討議の経過から考えても当然そうな

らざるをえないように思います。ただ「重点をおく」というのは、できれば本年の報告のなかに、大正一昭和戦前期の実態に関する事を含めたいからです。

右のような二点を前提として、私の希望をのべますと、一つには、そこでまず戦後農村の家の構造、機能、それらの変化の過程が、「現段階における農民層分解の性格をとらえ」（九六号二ページ）るために追求されること。二つには、さらにそれらの家の、戦前的な家との差異、およびその変化（解体）の過程が、家相互の関係（地域的家連合）、村およびその「解体」と、どのような関連ないし規定関係を相互にもっているかが明らかにされること。三つには、以上を前提として「新しい農業の主体の形成の条件をさぐる」といった問題に討議をむすびつけていってもらえれば、と思っっている次第です。もちろん、高山さんの「論点整理」の中で指摘されている他のいくつかの重要な論点は、右の問題点がとりあげられれば、それに関連してとりあげられてくるはずと考えます。三の「新しい主体」の点になると、近年本格的に農村へはいったことのない私などには、ひどく見当のつけにくい問題ですが、一と二の点は、「現段階の農民層分解」と「村の解体」を家の側面からアプローチし検証することなので、この「家」を課題にとりあげようとした意味も、もともと焦点はこの辺にあったように考えています。私の思いこみかも知れませんが。